



《現場からの提言》ハイブリッド情報環境下の情報探索における体験的一考察：近代絵本・赤毛のアン・ハーメルンの笛吹き

著者	伊藤 幸江
雑誌名	図書館界
巻	63
号	6
ページ	406-413
発行年	2012-03
URL	http://hdl.handle.net/10236/10085

ハイブリッド情報環境下の情報探索における体験的一考察 —近代絵本・赤毛のアン・ハーメルンの笛吹き—

伊 藤 幸 江

From information seeking in hybrid information environment: Early picture books, *Anne of Green Gables* and the piper of Hamelin, by ITO Sachie.

1. はじめに

近年の情報の電子化の進展により、調査・研究を目的として利用されることが多い大学図書館も、大きな変化の中にある。二次資料のデータベース化に始まり、学術雑誌は出版社等による電子ジャーナル化と、機関リポジトリ等による無料公開が進み、電子書籍も普及し始めた。

一方、図書館等に蓄積されてきた著作物・記録史料等のデジタル化も行われてきた。近年では、Googleに代表される商業ベースの活動や、国家的・国際的プロジェクト¹⁾が大規模に行われるようになり、質・量ともにめざましい進展が見られる。

こうした情報環境の変化は、文献研究をよく行う人文科学や歴史研究²⁾で利用される情報媒体をも大きく変えた。日本史では、研究素材を収めるデータベースの進展が目覚しく、使い勝手や構造上の課題はあるが、研究環境が大きく変わってきている³⁾。国文学についても同様⁴⁾で、外国文学では海外に資料を求めて行く必然性が減少しており⁵⁾、電子学術アーカイブの技術も進化しつつある⁶⁾。こうした環境を活かし、デジタル書物学⁷⁾といった新しいアプローチも出てきている。

情報の探索から入手までを、Web上で利用者自身が行う時代の到来は、それをサポートしてきた図書館の存在にも影響を与え始めている。電子環境が更に進む北米からは、大学のライブラリアンの絶滅を危惧する報告⁸⁾もある。情報媒体と利用法の変化で、図書館が資料と利用者を繋ぐ時代が終焉し、専門職は不要となり、巨大倉庫＝図書館とその管理人

が残ると予測されている。

しかし、電子化は進展しているものの、冊子体が完全になくなったわけではない。この紙と電子が共存する図書館を、ハイブリッド図書館⁹⁾と呼び、そのサービスについては、情報探索行動¹⁰⁾などをはじめ、様々な視点から論じられている。

図書館の資料コレクションは、提供するサービスの中核¹¹⁾とされてきた。大学図書館が提供する学術情報には、学術雑誌に代表される研究成果に加え、文献研究の素材となる著作物や記録史料等がある。この電子環境の進展の中で、大学図書館では、研究成果のみならず、研究素材についても、コレクションの資料媒体を検討する必要があるが出てきている。今、大学図書館は、何を選書・保存することが最適なのだろう。研究素材とされる文献を、原本や復刻版等で収集する必要はもうなくなったのだろうか。

ところで、調査・研究を行う利用者は、なぜあれほど熱心に、情報を探し求めるのだろうか。かつてレファレンス担当だった時、特に文学や歴史研究の利用者に接する際、そういった疑問をいつも感じた。そして、利用者はこのハイブリッド情報環境下で、どんな情報をどんな媒体で入手しているのだろうか。人文科学系の研究者は、文献を読み進める中で探索の道筋を立て、連鎖的探索によって重要な文献を網羅していく¹²⁾ため、探索行動自体が重要である。自身で探索する時代ならば、筆者が一利用者としてハイブリッド情報環境で探索することもできよう。

本稿では、明確な目的が探索を向上させる¹³⁾ことも踏まえ、大学図書館の選書や蔵書管理に資するため、筆者自身が仮想事例で情報探索を行うことにより、現在の情報環境の一端を把握することを目指す。

2011年12月3日受理

いとう さちえ 関西学院大学図書館

2. 対象事例

今回対象とする文学等の人文科学や歴史研究では、情報や記憶の蓄積が検索に大きな影響を持つ¹⁴⁾とされる。このため、学生時代の専攻がこの分野ではない筆者にも若干の事前知識があり、媒体を見るために原本に当たることが可能な事例がよい。

この夏、以前から関心のあったカナダの児童文学や近代絵本等を収蔵するトロント公共図書館のオズボーン・コレクションの資料を見学する機会を得た。このため、勤務先の収書分野とは異なるが、19～20世紀前半の絵本や児童文学の古典的作品を対象とでき、その原本などが研究素材的な扱いが可能なこと、また筆者に熟読経験のある作品を対象にでき、探索の一助とすることが期待できるため、その収蔵分野に関わる事例を設定する。

具体的には、文学・美術・出版等の多様な視点で扱うことが可能な近代絵本や、カナダの作家ルーシー・モード・モンゴメリ(Lucy Maud Montgomery)の『赤毛のアン(Anne of Green Gables)』シリーズに関連する下記の3つの事例を調べる。

なお、事例はレファレンス調査の応用範囲で探索できるものを選択する。

事例1：『ちょうちょうの舞踏会とバッタの宴会(The Butterfly's Ball, and the Grasshopper's Feast)』

ここでは、絵本の初期の版の所在を調査する。

この絵本は近代絵本の先触れといわれ、子どもの本に教訓色が強い時代に、純粹に楽しみを与えるための最初の創作絵本¹⁵⁾で1807年に出版された。

前年に『ジェントルマンズ・マガジン(The Gentleman's Magazine)』に掲載されたウィリアム・ロスコー(William Roscoe)の詩が原作である。同誌は、イギリス最初の近代総合雑誌で、初めて雑誌に「マガジン」の語を使ったことで有名である¹⁶⁾。

自館でも原本を所蔵しており、容易に初出に当たることができるため、これを選択した。

事例2：『炉辺荘のアン(Anne of Ingleside)』の詩

ここでは、作品で引用される詩の出典を調べる。

『赤毛のアン』は、児童文学とされているが、詩や文学作品の引用が豊富であることで知られ、文学的観点からの講義が東大で試行された¹⁷⁾こともある。

この詩はアンシリーズの中の『炉辺荘のアン』に出てくる船の詩だが、主な翻訳に出典の記載はない。

伊藤：ハイブリッド情報環境下の情報探索における体験的一考察

シリーズの最初の方については、最近、研究成果¹⁸⁾や調査¹⁹⁾を反映した詳しい注釈付きの翻訳も出ているが、この作品はまだであるため、この出典を探索する。

事例3：『虹の谷のアン(Rainbow Valley)』のハーメルンの笛吹きの本

ここでは、作中にタイトルを明示せず紹介されている図書を特定する。

第一次世界大戦の戦前・戦中を舞台とする『虹の谷のアン』と『アンの娘リラ(Rilla of Ingleside)』では、「ハーメルンの笛吹き」が戦争の象徴となっている。

『虹の谷のアン』では戦争の予兆として使われ、最初の登場はアンの息子ウォルターが、ハーメルンの笛吹きの本を仲間に読み聞かせるところである。

作中にその本のタイトルがなく、注釈のある翻訳もないため、この本を調べる。

なお、これらの事例では、探索を通じて、調査に必要な情報媒体を確認することを主眼とする。

3. 探索の概要と経緯

3.1 事例1：『ちょうちょうの舞踏会とバッタの宴会』

英米の絵本論の図書²⁰⁾によれば、この作品は、1806年に雑誌に掲載の詩を元に1807年に絵本として出版されたが、人気が高く、1年で版が擦り切れ、翌1808年に別の挿絵で再版されたといわれている。

1807年と1808年の版を比較した研究²¹⁾²²⁾では、資料の大きさやページなどの形態事項、テキストの違いや挿絵、絵本としての構成と各版の特徴等が分析されている。

ここでは、初出とされる雑誌の詩、絵本として出版された初期の2つの版の計3つが紹介されているが、これらは現在どんな手段で利用できるのだろうか。

原書名での Google 検索では Wikipedia にヒットし、その中の Project Gutenberg のリンクで、1808年版を元に1883年に作られたファクシミリ版²³⁾の電子化資料²⁴⁾が見つかった。また、Internet Archive(<http://www.archive.org/>)を検索すると、1883年の復刻分の電子化資料が複数ヒットした。

つまり、1808年の版については、1883年の復刻を電子化した資料が Web 上で利用可能である。

1807年版には、オズボーン・コレクションを元に、質にこだわって作られた²⁵⁾というほるぷ出版の復刻

版²⁶⁾があり、国内に多くの所蔵がある。勤務する大学図書館の所蔵はないが、同学校法人内の別の機関(えほんとおもちゃのへや)で閲覧することができた。

手に取ると予想以上に小さく、ハガキ大の簡素な薄い本であった。表紙の文字や絵にかすれはあるが、銅版が使われているため中の挿絵は繊細で、同復刻集のそれ以前の時代の木版挿絵本とは違っていた。

初出とされる『ジェントルマンズ・マガジン』1806年11月(Vol.76)は自館所蔵の原本を見た。小ぶりの雑誌で、活字が小さく、紙質もやや粗い。号の表紙の目次で *Select Modern Poetry* の部分だろうと当たりをつけ、本文を丹念に見ていったところ、p.1052に紙面に埋もれるように掲載されていた。

ところが、後日、誌名とタイトルで *Google books* を検索すると瞬時にヒット²⁷⁾し *Web* 上で閲覧できた。

絵本の2つの版の原本は、*Webcat* で確認する限り国内所蔵はなく、オズボーン・コレクションで閲覧した。寄贈者のイギリスの図書館員オズボーン氏が、一般公開をその条件としたこともあり、資料を直接手にとって利用することができた²⁸⁾。

1807年版の原本には、復刻版にはない経年を感じさせる傷みやしみ等があり、触った時に紙質の違いを感じた。良質な復刻版でも、物質として持つ情報が原本とは違うことを確認した。

この絵本は彩色のあるものとないものがあり、1808年版は手彩色の原本を閲覧したが、彩色以外にも復刻と違う部分を発見した。原本には *A Winter's day* という詩の合冊があり、表紙のデザイン、挿絵ページの綴じの方向が異なる。復刻は挿絵が文字ページと平行だが、原本は垂直であった。

あくまで *OPAC* 記述上での確認だが、大英図書館所蔵の原本にもこの詩の合冊の記載がある。

オックスフォード大学のボードリアン・ライブラリー(*Bodleian Library*)には、児童書で有名なオペーコレクション(*Opie Collection*)があり、そのマイクロも販売され、この絵本も収蔵されている²⁹⁾。同館の *OPAC* データには、1808年版が2種類あり、表紙の色や、*A Winter's day* の表題の大文字小文字表記や行数の違い等があると記載されていた。また、同館発行の雑誌に掲載の論文³⁰⁾にも、1808年版は *A Winter's day* を加えて出版とある。つまり、1883年の復刻は1808年や同じ挿絵を用いたそれ以降の原本やマイクロ等での検証が必要である。

以上より、現在、1807年の版は復刻版やマイクロで、1808年版はマイクロや1883年の復刻やその電子化分が利用できるが、原本の検証も必要である。

原本は復刻等や電子化資料を検証するために必要である上、紙質や刷りや使用状態など詳しい物理的情報も得られるため、研究にそれらの要素が必要な場合は、他の媒体での代替は難しいといえよう。

3.2 事例2：『炉辺荘のアン』の詩

『炉辺荘のアン』は1939年初版で、この詩は新潮文庫の村岡訳³¹⁾では、「船が走る、海を走る、ああ、わたしのところへ きれいなものをどっさりのせて。」と訳されているが、講談社の掛川訳³²⁾とともに出典の記載はない。英語圏の作品で子守唄として使われているので、マザーグースの可能性が高いが、原文を確認することにした。

モンゴメリの作品の原書の多くは全文テキスト化されている。日本語訳で掲載章を確認し、*Project Gutenberg Australia* で原書 *Anne of Ingleside*³³⁾を見つけ、章の本文をたどると、原文は “I saw a ship a-sailing, a-sailing on the sea, And oh, it was all laden with pretty things for me,” と記載されていた。この詩は作中数回出てきたので、“I saw a ship a-sailing” で本文を検索したところ、すぐ2ヶ所あると分かった。なお、この詩の原文については、後日、オズボーン・コレクション所蔵の *Anne of Ingleside* の初版のテキストと同じであることも確認した。

次に “I saw a ship a-sailing” で *Google* 検索すると、マザーグースニコ送局という動画³⁴⁾がヒットし、日英両方の歌詞を聞くことができた。サイト名から、予測の通り、マザーグースらしい。

歌詞全文で再検索すると、*ECLIPSE :: Mother Goose*³⁵⁾というラトガース大学の研究サイトがヒットした。この詩が5つの出典から掲載されていたが、歌詞が一致するものはなかった。最後の単語のみが “me” でなく “thee” であるものが2つ³⁶⁾³⁷⁾と、他の3つ³⁸⁾³⁹⁾⁴⁰⁾は最後が “me” で終わっているが3節目 “And oh, it was all laden” で不一致がある。

サイトの掲載内容の確認を含め、自館所蔵の事典⁴¹⁾や復刻シリーズ⁴²⁾も通覧した。確認できた範囲では、歌詞の一致も、サイトの掲載違いもなかった。

確認資料中、最後の単語のみ “thee” のものが、15件中10件と最多で、なぜ、2人称の “thee” では

なく1人称の“me”の歌詞が使われたのかが疑問である。

モンゴメリは綴りにこだわる作家⁴³⁾で、自身の詩集の出版もある上に、計算して詩の引用を行うとされている⁴⁴⁾ため、作中2回の引用や言及があるこの詩には作家の意図や出典がある可能性が高い。

Google books を詩の全文で検索した結果、同じテキストが *Chambers's Narrative Series of Standard Reading Books* III⁴⁵⁾ という1863年発行の教科書風の資料にあった。オズボーン・コレクション所蔵の1870年発行分もこれと同じテキストだった。もしこれが当時の教科書であれば、出典の可能性もある。

しかし、第1作の『赤毛のアン』の教科書の記述の出典⁴⁶⁾を確認すると、当時の教科書はネルソン社のロイヤルリーダー(*The Royal Readers* Thomas Nelson Publishers)とあり、これではなかった。

詩の出典がマザー・グースであることは確認できたが、テキストレベルで明確な出典を究明するには、作品や作家研究を行い、モンゴメリの蔵書の調査や、日記や手紙などでの背景分析が必要だろう。

今回の事例では、掲載箇所が分かる翻訳書の確認から探索を始めたが、原書の照合や情報収集にはWeb情報が有効だった。一方、情報の確認には、原本や復刻版等の冊子体に利便性を感じた。

テキストの確認は、画像化された電子化資料で行うことも可能であろう。しかし、今回参照した復刻シリーズは、自館での所蔵の記憶があり、事典についても所蔵が期待できた。一方、電子化資料は複数の提供サイトでの探索が必要なため優先順位が下がった。そして、情報の信頼性は原本が最も高く、今回はオズボーン・コレクションの訪問によってその利用が可能だった。

この事例では、媒体の選択に、掲載や存在の記憶、利用できる情報環境、その利便性が大きく関わった。つまり、これらの状況が違えばまた違った探索を行ったともいえる。このため、目的や状況に応じて、必要な媒体や選択する媒体に違いが出るといえよう。

3.3 事例3：『虹の谷のアン』のハーメルンの笛吹きの本

『虹の谷のアン』に出てくるハーメルンの笛吹きの本を特定する。第1作の『赤毛のアン』は冒頭の題辞と最後のアンの台詞にロバート・ブラウニング

伊藤：ハイブリッド情報環境下の情報探索における体験的一考察

(Robert Browning) の詩が使われている⁴⁷⁾。ブラウニングには、19世紀末の著名な絵本作家ケイト・グリーンナウェイ(Kate Greenaway) 挿絵の絵本⁴⁸⁾にもなっているハーメルンの笛吹きの詩もあり、この詩の可能性もある。

手持ちの村岡訳⁴⁹⁾で確認すると面白い神話の本となっている。Project Gutenberg で原書⁵⁰⁾の該当部分を確認すると、訳より詳しく本の内容や項目が書かれており、村岡訳に省略がある⁵¹⁾ことが分かった。

原文中の単語 piper と Bishop Hatto で WorldCat を検索すると *Curious Myths of the Middle Ages* という図書(OCLC No:582649) が目次情報でヒットし、目次に原文との一致が多々あった。出版年は[1967]と1919年初版の『虹の谷のアン』より新しいが、Online version で、著者が Baring-Gould, Sabine, 1834-1924であるため初版は古いことが分かった。

別の版も表示させるため、タイトルで再検索すると複数の19世紀の版とともに、和訳の『ヨーロッパをさすらう異形の物語：中世の幻想・神話・伝説』⁵²⁾がヒットし、自館に原書⁵³⁾とともに所蔵していた。

西洋の伝説の知識がないため、翻訳書で比較した。

完訳版の掛川訳⁵⁴⁾には、「プレスター・ジョン；さまよえるユダヤ人；古い杖；尻尾のある男たち；黄金への道を作る虫；シャミールの話；幸せの島；白鳥の娘たち；ウィリアム・テル；ゲラート；ハットー主教；ハメルンの笛吹き；聖杯」があがっている。

翻訳の目次は、「さまよえるユダヤ人；プレスター・ジョン；古い棒；エペソスの眠れる七聖人；ウィリアム・テル；忠犬ゲラート；尻尾の生えた人間；反キリストと女教皇ヨハンナ；月のなかの男；ヴィーナスの山；聖パトリックの煉獄；地上の楽園；聖ゲオルギオス；聖ウルスラと一万一千の乙女；聖十字架伝説；シャミール(=黄金への道を作る虫)；ハーメルンの笛吹き男；ハットー司教；メリュジヌ；幸福の島；白鳥乙女；白鳥の騎士；サングリアル(=聖杯)；テオフィロス」である。

この両者の類似度からこの図書でよいといえよう。ただ、WorldCat のデータを参照すると、この図書は版や出版社が多岐にわたっている。2分冊のもの(1:1866年初版, 2:1868年初版)と、合冊分の新版(1869年初版)の2種類に大きく分けられる。2分冊のいずれの内容も上がっていることから、合冊分の図書であろう。ただ、他の出版社のものもあ

り、掲載内容にも若干の違いが見られる。作品の設定年は1907年頃、初版出版は1919年と、1869年の新版の発行から40～50年経っていることから、厳密な版や出版社の特定には、この作品よりも前に発行された版の目次や本文による掲載内容の比較が必要である。複数の版が電子化されているため、Web 上での比較も可能だが、当該版の電子化がない場合は原本等の冊子体が必要になる。今回はそこまで行わなかったが、詳細な作品研究であれば、これらの資料や情報が必要になるだろう。

また、視点を変え、著者の蔵書による検証も可能かもしれない。この場合は旧蔵書収蔵文庫等があれば、その目録情報を参照し、それらの情報が十分でない場合は、現物の確認が必要となるだろう。

なお、内容からの検索はその結果が Web 情報の検索性に左右される部分が大きいため、データベース版の翻訳図書目録、Google、Google books 等、更にいくつかの検索を試行した。日本語データベースは翻訳時の表記揺れに課題があり、Google は検索語に柔軟性はあるが Web 上の情報量に大きく結果が左右され、Google books は本文中の語で検索できるものの日本語検索の場合のヒット率が高くなかった。内容情報からの探索は検索語の選択が難しく、情報の収録状況も検索結果を左右するため、複数の手段を使うことが重要といえよう。

4. 分析・考察

事例1では、最初の近代絵本の初出雑誌・初版・新版について入手できる媒体を含む所在を調べた。年代の古い著名な雑誌や作品は電子化や復刻が進んでいる。ただ、電子化はまだ進行中で入手できない版もあること、また復刻はその精度に揺れがあり、原本での検証が必要な場合がある。電子資料の利点は検索性の高さやリンク機能であり、冊子体資料は紙質や刷りや使用状態など物理的情報が豊富である。

事例2では、翻訳書で出典が不明な詩を調べた。刊行年が古い有名な著作は、Web 上に電子化された作品や、信頼性の高い研究情報が存在する場合があり、Web は情報収集時に有効である。しかし、それらを利用する際は情報の検証が必要な場合がある。例えば、原資料のテキストの異同の反映や、引用や媒体変換時の揺れや出典情報の確認、電子化データの精度等である。確認の内容により利用可能な媒体は異なるが、信頼性の点では原本が最も高い。

資料の比較のみでは断定できない事項の究明には、著者の意図や作品の背景把握のために、著者の蔵書や、記録や手稿等、周辺資料の分析が必要となる。

事例3では、タイトルが明示されていない図書を掲載内容に関する記述から特定した。内容情報からの Web 検索では、サイトによって収録情報や検索語の処理方法に違いがあるため、検索語も手段もいくつか組み替えて行う必要がある。また、図書の版による内容の違いに注意が必要であり、目次のみならず本文参照が必要な場合もあるため、電子化されていない版があれば、冊子体の確認が必要になる。更に作品の出典の確認に著者の旧蔵書等を用いる場合は、旧蔵書の原本という媒体以上のその図書固有の価値が重要となる。

つまり、今回の3事例より以下のことが示唆された。現時点では、研究素材は、原本やその復刻、マイクロ、電子化資料と様々な媒体を組み合わせる利用する必要がある。媒体の違いの特徴として、復刻版は、電子化資料より物理的情報に優れているが、出版上の制約からその精度に揺れがある。⁵⁵⁾電子化資料は検索性やリンク機能などの利便性が高いものもあり、画像化も精度を高くしやすいが、複製物である限り、媒体変換時の揺れに注意する必要がある。このため、原本はまだ電子化されていない場合に加え、他の媒体の正確性を検証する場合に必要である。また、原本の物理的情報や所蔵者等の付加的情報を見る場合に必要になることがある。

これらを集約すれば、媒体の選択の際の判断には、情報の「利便性」「正確性」「独自性」が関わるといえる。

探索は、最も利便性が高い(効率がよい)媒体から開始され、調査が目的であれば、正確性(信頼性)の高い媒体を用いることが求められる。物理的情報等媒体変換や代替が難しい情報が研究対象の場合、独自性(固有情報)のある情報を持つ媒体が必要となる。

あくまで少数の探索事例による体験的な見解だが、ハイブリッド情報環境下では、冊子体は、電子化資料の不在、電子化資料を含む複製資料の検証、その資料の物理的情報等を利用する場合に重要であろう。

5. まとめと今後の展望

本稿では、現在のハイブリッド情報環境下で人文科学分野の情報の探索と利用を体験することにより、

大学図書館の選書や蔵書管理について考えることを目指した。

平素、図書館員は利用者のニーズを把握し、それに合う情報を代行して収集し提供している。しかし、自身のニーズでなく、情報の利用を伴わないため、利用結果による情報の評価が難しい。つまり、情報やコレクションは利用からの評価が必要である。

今回の事例の探索という利用体験から、現在の情報環境を俯瞰し、将来の大学図書館の選書への提言までは行えないが、示唆されることも多かった。

電子でも、冊子体でも、網羅的な情報⁵⁶⁾⁵⁷⁾を持ち、媒体の違いに左右されず、ワンストップで検索・利用できる使いやすいコレクションであることが、調査・研究には重要である。そして、今回のささやかな事例においてさえ、利用できる情報の集積と検索・利用の利便性の高さが重要であることを強く感じた。

事例の探索の中で、コレクションとしての Web 情報の充実と検索性の高さを体験し、テーマに特化したオズボーン・コレクションの資料の奥行きや提供姿勢に感銘を受け、関連資料を高確率で利用できる約150万冊の自館の蔵書の利点をも享受した。

そして、探索や参照には電子のコレクションが、確認には冊子体のコレクションが有効だった。

二次情報や研究成果は電子資料でニーズを充足しやすいが、研究素材では情報の正確性や媒体や資料独自の情報から、原本の必要性がなくなるわけではない。全ての冊子体が必要なわけではないが、残す必要のある資料もある。このため、新規購入分だけではなく既所蔵の資料も含め、今後も提供が必要な冊子資料を選択し、ふさわしい保存⁵⁸⁾をしていくことが必要であろう。つまり、利用のために残していく冊子体を蔵書管理の一環として「選書」することも新たに必要なのではないか。そうした視点に立ったハイブリッドな選書が必要な時代となってきた。

学術情報のハイブリッドな選書という点では、次のようなことが言えるかもしれない。

Web 情報は、所蔵によって安定した提供が可能である冊子体と違い、頻繁に更新や移動、削除が行われ、同じ形での恒久的なアクセスは保障されていない⁵⁹⁾。無料のコンテンツだけで、号や版の網羅は難しく、有料のものも、収録情報の改編が頻繁なものがある。

このため、鮮度が重要で、流通の電子化が進んだ研究成果は、電子ジャーナルやそのバックファイルなどに集約し、電子媒体のアクセスを今後も確保していく。二次情報は、情報の網羅性や精度が高く、結果の抽出が容易で、一次情報へのリンク機能が充実しているものを、状況の変化に応じて選びかえていく。研究素材の電子資料の選定では、網羅性の高い買切りアーカイブのアクセス権を安定確保し、未来に備えることも重要だろう。

文化的価値や希少価値があり、将来も研究素材とされる冊子体資料は、既存の所蔵資料を含め選定していき、利用のための電子化と、検証のための原本保存を行う。この保存のための選書や蔵書管理では、現在進んできている博物館等との連携⁶⁰⁾も重要であろうし、新しい形の分担保存やコンソーシアムが必要なのかもしれない。

よりよい提供を行い続けるために、図書館は集める時代に培った選定・組織化・保存・提供の経験をし、情報にアクセスし、資料を利用のために残していく時代に合った形で活かすこともできよう。

最後に、オズボーン・コレクションの利用に際し多大なご協力をいただいた梶原由佳さんに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 時実象一「世界の知識の図書館を目指す Internet Archive 創設者 Brewster Kahle へのインタビュー」『情報管理』52(9), 2009.12, p.534-542.
- 2) 伊藤(村上) 幸江「人文・社会科学分野における主題に即した利用教育の検討：利用者研究と主題別情報探索法指導」『図書館界』56(4), 2004.11, p.236-254.
- 3) 岡本真「日本史研究におけるインターネットの学術利用：これまでの成果と、これからの課題(新年特集日本史研究とデータベース, 分野別現況)」『日本歴史』740, 2010.1, p.55-60.
- 4) 荒木浩「ぞんざいな検索, 丁寧な検索：日本文学関連データベースの周辺(新年特集日本史研究とデータベース, 分野別現況)」『日本歴史』740, 2010.1, p.49-54.
- 5) 小林拓也「インターネットと文学研究：新たなルソー研究空間」『藝文研究』98, 2010, p.167-148.
- 6) 神崎正英「人文学研究と電子アーカイブ」『カレントアウェアネス』307, 2011.3, p.19-23.
- 7) 安形麻理『デジタル書物学事始め：グーテンベルク聖書とその周辺』勉誠出版, 2010, 211p. (ネットワーク時代の図書館情報学)

- 8) 石松久幸「今、アメリカの大学でライブラリアンと呼ばれる職業が絶滅しつつある：デジタル化がもたらしたものの？」『出版ニュース』2187, 2009.9, p.6-10.
- 9) デイビッド・M. レヴィ (高木和子訳) 「デジタル時代における図書館の位置付け」『情報管理』45(1), 2002.4, p.1-7.
- 10) 寺井仁「ハイブリッドな情報環境における情報探索行動に関する実証的研究」『日本図書館情報学会誌』57(2), 2011.6, p.43-62.
- 11) 三浦逸雄, 根本彰『コレクションの形成と管理』雄山閣出版, 1993, 271p. (講座図書館の理論と実際2)
- 12) 越塚美加「個人の情報世界」『情報探索と情報利用』田村俊作編, 勁草書房, 2001, p.116-124. (図書館・情報学シリーズ2)
- 13) 寺井仁, 前掲10), p.60.
- 14) 越塚美加, 前掲12), p.110, 120-124.
- 15) 桂有子『はじめて学ぶ英米絵本史』ミネルヴァ書房, 2011, p.5, 9-10. (シリーズ・はじめて学ぶ文学史8)
- 16) 出口保夫『イギリス文芸出版史』研究社出版, 1986, p.45-48.
- 17) 山本史郎『東大の教室で『赤毛のアン』を読む：英文学を遊ぶ9章』東京大学出版会, 2008, 197p.
- 18) L・M・モンゴメリ(W・E・バリー, M・A・ドゥーディ, M・E・D・ジョーンズ編, 山本史郎訳)『赤毛のアン：完全版』原書房, 1999.11, 677p.
- 19) L・M・モンゴメリ(松本侑子訳)『赤毛のアン』集英社, 1993, 532p.
 なお、これ以外に2011年7月現在、2作目の『アン青春』と3作目の『アン愛情』が、同訳者により詳しい注釈つきで翻訳されている。
- 20) 三宅興子『イギリス絵本論』翰林書房, 1994, p.39-49.
- 21) 同上, p.39-44.
- 22) 三宅興子「絵本 *BUTTERFLY'S BALL* について」『日本保育学会大会研究論文集』29, 1976.5, p.2.
- 23) William Roscoe, (with an introduction by Charles Welsh), *The Butterfly's Ball, and the Grasshopper's Feast*. London, Griffith & Farran, 1883, x, 11p., [7] leaves of plates.
- 24) *The Butterfly's Ball and the Grasshopper's Feast*. by William Roscoe - Project Gutenberg. <<http://www.gutenberg.org/ebooks/20860>>. [引用日：2011-07-10]
- 25) 復刻世界の絵本館編集部「製作にあたって」『復刻世界の絵本館—オズボーン・コレクション—解説』石井桃子編, ほるぷ出版, 1979, p.85-87. (復刻世界の絵本館：オズボーン・コレクション)
- 26) [William Roscoe], *The Butterfly's Ball, and the Grasshopper's Feast*. ほるぷ出版, 1979, [15] leaves. (復刻世界の絵本館：オズボーン・コレクション)
- 27) *The gentleman's magazine, and historical chronicle* Vol.76, pt.2, 1806, p.1052. <<http://books.google.co.jp/books?id=KJ9JAAAAAAJ>>. [引用日：2011-10-23]
- 28) 梶原由佳「シリーズ・海外図書館事情を語る第2回 オズボーン・コレクションへの招待：14世紀以降のこどもの本を集めた The Osborne Collection of Early Children's Books, Toronto Public Library」『図書館雑誌』90(5), 1996.5, p.306-308.
- 29) Opie Collection of Children's Literature POETRY AND VERSE: PRE 1850: Opie P372, Opie P373. <http://www.bodleian.ox.ac.uk/_data/assets/pdf_file/0018/28107/P_Poetry_and_verse_pre-1850.pdf>. [引用日：2011-10-05]
- 30) Clive Hurst, "From a great distance": The Early Texts of *The Butterfly's Ball*. *Bodleian Library Record*. 13(5), Oct. 1990, p.415-422.
 なお、本文では触れなかったが、この論文は手紙や手書き原稿等を用い、より詳しい原詩の発表過程とテキストの違いを精細に分析し、もう一つの掲載誌の存在への言及やテキストの違いの理由などを解明している。
- 31) モンゴメリ(村岡花子訳)『炉辺荘のアン』新潮社, 2008, p.228, 392. (新潮文庫 1261)
- 32) L.M.モンゴメリー(掛川恭子訳)『アンのおの家庭』講談社, 1999, p.140, 238. (完訳クラシック赤毛のアン 6)
- 33) *Anne of Ingleside* by - L. M. Montgomery - Project Gutenberg Australia. <<http://gutenberg.net.au/ebooks/01/0100281h.html>>. [引用日：2011-07-03]
- 34) マザーグースニコ送局【うみゆくふね】-I SAW A SHIP, A-SAILING. <<http://www.youtube.com/watch?v=QMhYUqlmNPE>>. [引用日：2011-07-03]
- 35) ECLIPSE :: Mother Goose. <<http://eclipse.rutgers.edu/goose/rhymes/ship/vv.aspx>>. [引用日：2011-07-03]
- 36) James Orchard Halliwell, *Nursery Rhymes and Nursery Tales of England*. London, Frederick Warne and Co., 1853, p.80, No.CCCLXXVII.
- 37) Andrew Lang, *The Nursery Rhyme Book*. London, Frederick Warne and Co., 1897, p.139.
- 38) Sabine Baring-Gould, *A Book of Nursery Songs and Rhymes*. London, Methuen, 1895, p.55, No.XLII.
- 39) Iona Opie and Peter Opie, *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes*. Oxford, Clarendon Press, 1951, p.381-382, No.470.
- 40) William S. Baring-Gould and Cecil Baring-Gould, *The Annotated Mother Goose: Nursery Rhymes Old and New*. New York, Bramhall House, 1962, p.173, No.271.
- 41) Iona Opie and Peter Opie, *op. cit.* 39), p.381-382.
- 42) *Mother Goose library*. 1-3, Eureka Press, 2004-2008.
- 43) 梶原由佳『『赤毛のアン』を書きたくなかったモンゴメリ』青山出版社, 2000, p.147-148.
- 44) L・M・モンゴメリ(W・E・バリー, M・A・ドゥーディ, M・E・D・ジョーンズ編, 山本史郎訳, 前掲18), p.642.

- 45) Chambers W. and R., ltd., *Chambers's Narrative Series of Standard Reading Books*. Ⅲ, London & Edinburgh, W. & R. Chambers, 1863, p.56. <<http://books.google.co.jp/books?id=TNMDAAAAQAAJ>>. [引用日：2011-07-03]
- 46) L・M・モンゴメリー (W・E・バリー, M・A・ドゥーディ, M・E・D・ジョーンズ編, 山本史郎訳), 前掲18), p. 59, 155, 521-522, 536, 608.
- 47) 同上, p. v, 446, 579, 645-646.
- 48) Robert Browning, Kate Greenaway., ill., *The Pied Piper of Hamelin*. London, George Routledge and Sons, [1888], 64p.
 なお、この図書はオズボーン・コレクションで閲覧した。
- 49) モンゴメリー (村岡花子訳) 『虹の谷のアン』新潮社, 1959, p. 72-73. (新潮文庫 赤113-9)
- 50) *Rainbow Valley*. by L. M. Montgomery - Project Gutenberg. <<http://www.gutenberg.org/ebooks/5343>>. [引用日：2011-07-10]
- 51) 山本史郎, 前掲17), p. 61-80.
- 52) サビン・バリング＝グールド (村田綾子, 佐藤利恵, 内田久美子訳) 『ヨーロッパをさすらう異形の物語：中世の幻想・神話・伝説』柏書房, 上下, 2007, 325, 341p.
- 53) S. Baring-Gould, *Curious Myths of the Middle Ages*. New ed., London, Rivingtons, 1869, 660p.
- 54) L.M.モンゴメリー (掛川恭子訳) 『虹の谷のアン』講談社, 1999. 11, p. 71. (完訳クラシック赤毛のアン7)
- 55) 神崎正英, 前掲6), p. 19.
- 56) 越塚美加, 前掲12), p. 123.
- 57) 中島俊郎 『オックスフォード古書修行：書物が語るイギリス文化史』NTT 出版, 2011, p. 221.
- 58) デイビッド・M. レヴィイ (高木和子訳), 前掲9), p. 6.
- 59) 藤田節子 「失われていくインターネット上の参考文献：図書館情報学分野の雑誌論文に参照されたインターネット文献の入手可能性の分析調査」『情報管理』53(9), 2010, p. 492-503.
- 60) 金谷媛 「図書館・文書館・博物館における連携の動向」『文化情報学：駿河台大学文化情報学部紀要』16(1), 2009. 6, p. 33-43.